

リトアニア月報

2023年7月

在リトアニア日本国大使館

※本月報は月末現在の公開情報等を大使館で取りまとめたものです。

7月の振り返り

- リトアニアのナウセーダ大統領の言葉を借りれば、「独立後にリトアニアがホストする最も歴史的且つ最大のイベント」であったNATOビリニュス首脳会合は、初日に短時間の集中的なサイバーアタックはあったものの、何事もなく無事に終了、リトアニアが誇るべき歴史の1ページとなりました。
- ウクライナの NATO 加盟に関する進展については、リトアニア含む一部の NATO 加盟国からの物足りないという評価の発言が首脳会合前から多く取り上げられました。しかしながら、NATO ビリニュス首脳会合において、NATO・ウクライナ理事会も立ち上がり、G7 首脳によるウクライナ支援に関する共同声明もあり、また、米大統領によるリトアニアでの 20 年ぶりのスピーチも超満員のビリニュス大学のグランド・コートヤードで行われ、全体としては更なる連帯への高揚感の高いものとなりました。
- 岸田総理ご一行も、精力的に NATO 関連や AP4(日・豪・NZ・韓)関連の会談をこなされる中でも、ホスト国リトアニアのシモニーテ首相とのワーキングランチ、ナウセーダ大統領とのバイラテラル・ミーティングに時間を十分に割っていただき、また最後に総理ご夫妻で杉原記念館を時間延長して回っていただき、日本・リトアニアの二国間関係にとっても極めて有意義な NATO ビリニュス首脳会合となりました。
- ウクライナ情勢関連では、ロシアの黒海経由のウクライナ穀物輸送合意からの一方的な離脱を受け、リトアニアは鉄道でポーランド経由クライペダ港まで運ぶというウクライナ穀物輸送路の代替手段としてのインフラ強化を欧州委員会に外相、農相、運輸通信相連名で提案しました。
- 外交・安全保障面では、初旬にリトアニア初の「インド太平洋戦略」が決定され、リリースされました。中国等の経済的威圧等への対抗に日本含むアジア各国との連携をしつつ、EU 全体の動きをリードしていこうとする野心的なもので、来年ビリニュスで経済的威圧に関する国際イベントも予定されています。
- リトアニアへの大使館新設の動きでは、最近の韓国の公表に加え、カナダ首相が、バルト三国における外交プレゼンスを強化すべく現存のラトビアに加えてエストニアとリトアニアに大使館を新設すると公表しました。
- 経済面では、初旬に経済イノベーション大臣とレーザー業界の代表団が訪韓し、レーザーに加えてヘルスケアやバイオテクノロジーといった戦略分野で、リトアニアのイノベーション・エージェンシーと韓国の Korea Institute of Advancement of Technologies(KIAT)との間の更なる連携に加え、ツーリズムでの連携強化も合意されました。
- またバルト三国のパワー・グリッドの欧州とのシンクロナイゼーションについては、先行するリトアニアは来年中の完了を目指していましたが、三国が 2025 年 2 月までに同時に行うという方向に合意される模様です。その後、一旦コストの高騰で入札が白紙となったポーランドとのバル

ト海経由のパワー・インターコネクションを目指す「ハーモニーリンク」の開通が続くという状況です。リトアニアのエネルギー省は、2050年までの極めて野心的な長期国家戦略を策定中であり、水素・アンモニアを含む再生エネルギーも含めて目の離せない状況が続きます。

- トピックとしては、福岡で行われた世界水泳選手権で、リトアニアのルタ・マイルティエテ選手が女子平泳ぎ100mで優勝、自身が十代だった10年前にも同種目で金メダルを取っていて、その後一時引退的な歴史も経て復活し、丁度10年ぶりの金メダルという美しいストーリーでした。

駐リトアニア日本国大使
尾崎 哲

－内政－

3日 ナウセーダ大統領は、ギンタウタス・ヤークシュタス氏を、教育科学スポーツ大臣に任命。前任のシュグジュディエネ氏は、カウナス市議会議員時代の不透明な公費支出が批判の的となり、5月22日に辞任した。(ELTA)

17日 最新の世論調査によると、野党の社会民主党が政党ランキングの首位を維持し、その次に与党の祖国同盟が続いている。3位はリベラル運動、4位はリトアニアのための民主連合。(BNS)

19日 アグネ・ビロタイテ内務大臣は、ワグネルがロシアからベラルーシに移動している中、リトアニアのベラルーシとの国境の要員は、高度の即応性を維持していると述べた。しかし、同大臣は、ワグネルはまだリトアニアに直接的な脅威をもたらしてはいないとも述べた。(ELTA)

23日 リトアニア国家原子力安全監査局は、2022年における活動をまとめた年次報告書を発表。イグナリア原発の廃炉作業、放射性廃棄物の管理、国際的な不拡散義務の遵守、及びリトアニアと近隣国における潜在的な放射線事故について報告している。(ELTA)

24日 最新の世論調査では、ナウセーダ大統領がリトアニアで最も信頼されている政治家である一方で、シモニーテ首相の評価は悪化している。シモニーテ首相を最も信頼すると回答したのは4.6%にとどまった。「領収書スキャンダル」に対する対応が不評を買ったのが主な原因。(ELTA)

－外政－

5日 リトアニア政府は、東アジア地域におけるパートナーとの関係を強化するべく、インド太平洋地域におけるリトアニアの戦略を承認。(BNS)

11日 ナウセーダ大統領は、NATO首脳会合でリトアニアを訪問中のバイデン米大統領と会談。バイデン大統領は、「我々は、第5条を文字通り受け取る」と述べ、軍隊を向上させることによって国防力を高めているリトアニアの歩みを歓迎した。(ELTA)

13日 リトアニア政府は、スイスにリトアニア大使館を再設置する外務省の提案を承認。在スイスリトアニア大使館は、2007年から2018年まで運営していたが、コスト削減のために閉鎖されていた。今般の決定は、スイスの高度な経済発展とリトアニアとの2か国関係を鑑みなされた。(ELTA)

14日 リトアニアと他の15の EU 加盟国は、ウクライナのための欧州投資銀行臨時基金につき一致した。ウクライナの短期的な再建を支援することを目指し、4億ユーロ以上の資金を割り当てること確約した。(BNS)

19日 ナウセーダ大統領は、ラトビアのレヴィッツ大統領と会談。ワグネルのベラルーシへの到着やルカシェンコ政権の行動など、地域の安全保障状況について議論した。両首脳はまた、バルト三国のエネルギー網について議論。リトアニアは2024年に BRELL から離脱する計画だが、ラトビアは2025年を予定している。(ELTA)

20日 シモニーテ首相は、ミュンヘンにて、ゼーダー・バイエルン州首相らと面会。リトアニアと当州との間の協力について議論した。バイエルン州は、イノベーション志向の商品を取り扱うリトアニアの輸出業者、ライフサイエンス及びレーザー産業業界にとって重要な地域である。(BNS)

21日 リトアニアはウクライナからバルト海への穀物輸送量を直ちに増加させる手段を提案したが、欧州委員会及びポーランドとの交渉が円滑に進んでいないとスクオディス運輸通信大臣は述べた。一案として、リトアニアは、ウクライナとポーランドとの国境での通関手続と衛生検査をクライペダ港で代行することを求めている。(BNS)

-国防・安全保障-

13日 アヌシャウスカス国防大臣は、ロシアのハッカーによる NATO 首脳会合に係る情報漏えいは機密でもなく重大事でもないと述べた。ハッカー集団、自称「ロシアより愛を込めて(From Russia with Love)」が、NATO 首脳会合の警備配置や使節団の移動経路などの情報を入手していた問題を受けた発言。(ELTA)

19日 ドローン・ソングス(Drone Songs)という名の新たなクラウドファンディングキャンペーンがリトアニアで行われている。500機購入し、ウクライナの独立記念日(8月24日)に贈呈するべく、30万ユーロ集金することが目標。(ELTA)

19日 リトアニア主導の地雷除去作業は、ウクライナの前線ではなく、奪還した領域で行われるだろうとアヌシャウスカス国防大臣は述べ

た。(BNS)

21日 リトアニア軍は、ベラルーシに到着したワグネルがベラルーシ部隊とポーランドとの国境で共同演習を開始した後、地域の安全状況を注視しており、国家の潜在的な安全保障への脅威に応じる準備があると述べた。(ELTA)

24日 国防評議会は、リトアニアに別の軍事訓練場を整備することを提案したとブドリース国家安全保障担当大統領首席顧問は述べた。同顧問によれば、2030年までに、1個師団だけでなく、独旅団もリトアニア領内に駐留することになり、リトアニアには多くの訓練場が必要になるという。(BNS)

24日 リトアニアは今週、ドイツの製造業者と戦車「レオパルド」の購入に関する基本合意書に署名したとアヌシャウスカス国防大臣は述べた。ドイツの製造業者が選ばれた理由を問われた同大臣は、軍事的意見が政治的判断に先立つとして、詳述を避けた。(BNS)

26日 アヌシャウスカス国防大臣がドイツ製の戦車購入に関する基本合意書に署名したことを公表したことに関し、安全保障・国防委員会の所属委員の数名は、内密にしなければならない詳細を暴露したとして同大臣を批判。リベラル運動のロバタ議員は、米国の製造業者を無視し、議会で幅広い議論すること無しにドイツ製戦車の購入決定を公表したと非難した。(ELTA)

26日 9月にリトアニアで初めての対侵略保管所が設置される。リトアニア国家危機管理

センター長のヴィトカウスカス氏は、起こりうる敵の動きを止めるため使用されるあらゆる防御備品が保管されると述べた。(BNS)

ー経済ー

3日 アルモナイテ経済イノベーション大臣は、リトアニアのレーザー産業の使節団と共に、3日から7日にかけて韓国を訪問。当使節団は、リトアニアのレーザー業界、リトアニアレーザー協会及び自然科学・技術センターの代表8人から成る。(ELTA)

3日 スカイステ財務大臣がポーランドを訪問。ポーランドの金融業界の企業に対し、リトアニアへの投資及びリトアニアでの事業の拡大を呼びかけた。同大臣は、リトアニアで事業を拡張することによって、金融サービスの供給の増加、より適正な価格と質の確保、及び金融部門における競争の促進が実現されるだろうと述べた。(ELTA)

4日 韓国を訪問中のアルモナイテ経済イノベーション大臣は、サムスン・ディスプレイの代表者らにリトアニアを訪れるよう促した。同大臣は、「専門性の高いレーザー技術と国際的な評価を有するリトアニアの企業は、リトアニアのサムスン・ディスプレイとのパートナーシップを強化する準備がある」と述べた。(BNS)

4日 リトアニア中央銀行のシムクス総裁は、リトアニアはドイツの銀行が事業を拡大するのに非常に好ましい条件を有していると述べた。同総裁は、フランクフルトで、ドイツの商業銀行の代表らに対し、リトアニアの銀行部門の優位性について説明した。(BNS)

4日 リトアニアの国営石油・LNG ターミナル運営企業クライペドス・ナフタ(Klaipėdos Nafta)社は、英国の国際エネルギー企業 BP 社と、中南米諸国における新たな LNG プロジェクトの開発に関する協力協定に署名した。(BNS)

5日 リトアニアと韓国は、観光分野においてより緊密に協力するための協定に署名。「パンデミック後の韓国からの観光者は比較的少数であったが、去年の韓国の観光者は6倍増加した」とアルモナイテ経済イノベーション大臣は述べた。(BNS)

9日 アルモナイテ経済イノベーション大臣は韓国を訪問し、安德根(アン・ドクン)韓国産業通商資源部通商交渉本部長と会談。会談では、韓国のバイオテクノロジー業界の使節団がリトアニアを訪問すること、及びリトアニアのイノベーション・エージェンシーと韓国産業技術振興院の間の協力関係の強化が確認された。(ELTA)

10日 アルモナイテ経済イノベーション大臣は、リトアニアを訪問中のグーグル社公共部門長カラン・バティア氏と面談。人工知能の利用とその課題について議論した。(BNS)

11日 価格の高いリスク保険と明確な財政機構の欠如によって、リトアニアのビジネス界がウクライナの再建プロジェクトに携わることが妨げられていると、ビーティー・インベスト(BT Invest)社の CEO カラリウス氏は述べた。(BNS)

13日 ナウセーダ大統領は、ニュージーランドはピリニウスに通商代表部を設置しうると述

べた。ピリニウスで開催されたNATO首脳会合のサイドライン会談で、同大臣はニュージーランドのヒプキンス首相に開設を呼びかけた。(ELTA)

18日 リトアニアの太陽光事業ソフトウェアスタートアップのピービー・ケース(PVcase)社は、米国の投資会社から1億米ドルの投資を確保。リトアニアのスタートアップ組織のユニコーンズ・リトアニアによると、これは当国のスタートアップ部門の歴史上2番目に大きい投資。(BNS)

20日 リトアニア政府がより大きな競争を作り出すべく外国銀行にリトアニアに進出するよう促す中、リトアニア中央銀行の金融市場成長センター長は、ドイツ、ポーランド、イスラエル、米国及び英国の銀行が関心を示していると述べた。(BNS)

27日 スウェドバンクのエコノミスト、マシウリス氏によると、4月から7月の3か月間、前年比でケータリング価格が22%高、飛行機旅行価格が40%高と、サービス部門をはじめインフレーションは減速していないものの、国民の購買力は落ちておらず消費は減少していない。極端に高いインフレーションによるテクニカルな経済の停滞は終了したとみなされると同氏は述べた。(BNS)

28日 ベラルーシの肥料メーカー、ベラルーシカリ(Belaruskali)社によって製造された肥料約1100万トンのクライペダ港からの輸出は、西側の制裁によって昨年停止していたが、現在その肥料は、おそらくロシアの港から輸出されているとクライペダス・ナフタ社のCEOラタカ

ス氏は述べた。(BNS)

—エネルギー—

17日 リトアニアはロシア及びベラルーシと共有しているBRELL電力システムから来年にも離脱することを望んでいるが、エストニアは2025年始めに電力網の切替を完了するつもりであると、リトグリッド(Litgrid)社のCEOマシウリス氏は述べた。同氏は、リトアニア単独でBRELLから分離することはできないため、エストニアの計画に合わせざるを得ないと付言した。(BNS)

19日 クレイヴィーヌス・エネルギー大臣は、ロンドンでエネルギー分野の役人らと面会。同大臣は、リトアニアと英国はエネルギー部門の脱炭素化という同じ目標を共有しており、英国の洋上風力、グリーン水素及び原子力の分野の先進的な技術はリトアニアにとって重要であると述べた。(BNS)

19日 リトアニアの2023年前半の天然ガスの消費は、1時間あたり6.3テラワットと前年比で34%減少した。ガス消費は、暖冬及び年初の高額なガス価格によって縮小した。(BNS)

24日 国防評議会は、リトアニア政府に対して、ラトビア及びエストニアと、電力網の欧州大陸システムへの同期化は3か国同時に、2025年2月に行うという合意に達するべきだとする助言を発出した。(ELTA)

25日 汚職関連の違反の調査と起訴は、リトアニアにおいて実施されているが、公共調達には依然として汚職の高いリスクを孕んでいると、リトアニアの特別捜査部局は述べた。リトアニ

アは EU 加盟国で、欧州委員会から汚職防止体制を強化するよう勧告を受けていない唯一の国である。(BNS)

28日 リトアニア外務省は、オストロベツ原子力発電所の原子炉第2号機が稼働し、出力を上昇させているのを受けて、ベラルーシに外交文書を手交。指摘されている安全性の問題が解決されるまで第2号機を運転しないようベラルーシに要求した。(BNS)

－日本関係等－

13日 リトアニアの学生チームが、文部科学省によって千葉県で開催された第64回国際数学オリンピックで銀メダルと銅メダルを獲得。
(Lrytas)

18日 ヒガシマルインターナショナル社の代表団がリトアニアを訪問。訪問は、在日本リトアニア大使館によって手配され、リトアニアのミネイキエネ大使館農業アタッシュェが随行した。

以上